

平成23年度～27年度

自殺予防対策事業報告書



岩手県精神保健福祉センター
@iwate_seishinhk

岩手県民のこころの健康を増進を図るために、相談・技術指導等もしています。どうぞご利用ください。当センターでは、保健・医療・福祉といった多職種のコラボレーションが実現されています。

岩手県盛岡市・http://www.pret.wate.jp/info_rbz?nd=422&k=3&pnp=61&pnp=422

1,015 ツイート 673 フォロワー 690 フォロワー

ツイート

岩手県精神保健福祉センター @iwate_seishinhk
【情報提供】第12回日本トラウマティック・ストレス学会のプレングレス(5月10日、豊島区民センター)の参加登録受付中です。大会ホームページにて詳細をご確認の上、ご登録ください。ふもってご参加ください。
<https://www.jstss12.jp/corp.co.jp>



岩手県精神保健福祉センター

自殺対策事業報告書 概要

第1章 自殺の現状と背景

平成26年の岩手県の自殺死亡率は、26.6（自殺者数341人）である（人口動態統計）。平成22年度以降、自殺者の減少と自殺死亡率の低下傾向が認められる。平成26年の減少率は平成15年のピークと比較すると35.29%であり、全国と比較しても高い減少率となった。平成27年の本県の自殺者数は、313名であり、自殺者数の減少率は、16.3%で全国第4位を達成した。自殺対策の取組としては、平成18年度より久慈モデルによる自殺対策の推進を行ってきた。

第2章 自殺対策の推進手法に関する評価

1 ニュースレター配信

- ・配信数 : H24年度～平成27年度 合計 24回
- ・活用状況 : 会議資料として利用、クリニックでの配架、研修時に配布、庁内掲示板に掲載等

2 研修

- ・H23年度～H26年度研修会数 78回、受講者数 延べ4,390名
- ・受講状況は盛岡市が128人と最も多く、東日本大震災直後被災地での研修会を実施したことにより、沿岸地区の受講者が増加した。基礎研修、専門研修ともに1回のみ受講したものが多かった。

3 地域技術支援

- ・講義講師や事例検討等の技術指導・援助件数 1,132件（うち自殺関連 661件）、対象者数5,554人
- ・市町村からの依頼に対する支援が208件と最も多く、次いで、保健所が178件、医療施設121件であった。
- ・保健所別では、二戸保健所が132件と最も多かった。

第3章 活動の進捗と結果

1 久慈モデルの推進

地域自殺対策戦略介入プログラム「久慈モデル」の実施状況

- ・久慈モデル実施市町村数推移 : 28市町村（H22） → 32市町村（H27）
- ・実施率の高い取組 : 一次予防（100%）、二次予防（100%）
- ・実施率の低い取組 : 内部組織間の庁内連絡会の設置（56%）

2 自殺関連相談の対応の推進

(1) 自殺予防情報センターにおける相談体制整備

- ・相談件数（H23.4～H27.3） : 16,946件
- ・アクセス経路 : 電話帳が848件と最多である。次いで、インターネット763件となっている。
- ・自殺の危険性13項目に1項目以上該当した者10,763件、精神疾患のうち気分障害が最多であった。

(2) 自殺関連相談における事例検討（H24.4～H28.3）

- ・地域ケア検討会及び各種研修会にて合計71回の事例検討を実施。
- ・検討事例 実48事例、延61事例。
- ・参加者の所属別では、市町村が延べ295人と一番多く、次いで、医療施設延べ180人となっている。

(3) 自殺未遂者支援事業

① 対象者の転帰（H24.4～H27.12）

- ・ケアマネジメント利用者70名のうち、4年以内の再企図者10名（14%）、生存者63名（90%）
- ・ケアマネジメント未利用者28名のうち、4年以内の再企図者9名（32%）、生存者18名（64%）

② 今後の課題と対応

- ・対象者の検知・把握について・・・調整員と連携会議による未遂者の確認とケアマネジメントの徹底。
- ・ケアマネジメントの質の担保・・・保健所のネットワーク会議での事例検討の定例化、センター内での地域ケア検討会の活用、精神科医のスーパーバイズを受ける。
- ・対象者への支援のスキルの継承・・・所内ミーティングの活用、『ネットワークナース業務の手引き』の利用、研修会の開催。
- ・県内への均てん化・・・本庁障がい保健福祉課と連携し、マンパワー、予算の確保の検討をする。

(4) アルコール依存症・薬物依存症関連事業

①アルコール関連問題事業

- ・アルコール関連の研修会の開催状況（H23～H27）計8回開催、参加人数476人
- ・生活保護担当者への研修会の開催状況（H26年度）計4回、参加人数212人
- ・生活保護担当者事例検討によるケアマネジメント支援数 8件（H23） → 15件（H26）
- ・アルコール家族教室への参加世帯数と延べ人数（H21～H27）計89世帯、311人
5世帯（25名）H21 → 24世帯（65名）H27
- ・アルコール関連事例検討会 参加人数（H26～H27）112人、職種別では、民間機関等相談員が延べ14人で最多。所属別では行政機関延べ67人で最多。

②薬物依存症関連事業

- ・薬物依存症家族教室（H25～H27）：参加延べ15人、薬物依存当事者（SMARPP）プログラム参加2人。

(5) うつ病関連事業

①うつ病家族教室

- ・参加者（H18～H27）：実人員 117人 延べ人数 361人
- ・家族自身の精神健康尺度の変化：睡眠障害 2.04 → 1.13、一般疾患傾向 1.95 → 1.22

②こころのケア薬剤師養成事業

- ・こころのケア薬剤師養成数 18名
- ・こころのケア薬剤師在籍マイスター薬局 14薬局
- ・リーフレットの配布枚数 42枚
- ・ハイリスク者検知数 1薬局あたり平均3人

(6) 自死遺族こころのケア支援事業

- ・自死遺族支援実施機関と支援数：7か所10人（H18） → 29か所98人（H25）
- ・警察署における遺族へのリーフレット配布：300枚（H24） → 304枚（H26）
- ・県内自死遺族交流会実施状況：17人3回（H19） → 108人43回（H26）
- ・精神保健福祉センター自死遺族交流会実施状況：11人3回（H17） → 66人12回（H26）
- ・公開講座、専門研修開催状況：延べ回数10回、参加者数 352名
- ・複雑性悲嘆集団認知行動療法参加者数：2人（H26） → 7人（H27）
- ・自死遺族交流会連絡会（H25～H27）合計5回開催、延べ63人が参加。

(7) 自殺予防民間団体等育成に関する検討

- ・県内自殺対策に関わる民間団体数：13団体（H22） → 33団体（H27）
- ・さん・Sunねっと加入団体数：9団体（H22） → 17団体（H27）

(8) トラウマ関連事業に関すること

- ・事故後のこころのケア支援状況（H24～H27）：実施回数合計50回、支援者数延べ366人

(9) ひきこもり支援事業

- ・ひきこもり支援センター相談受理件数：27件（H23） → 105件（H27）
- ・保健所における相談受理件数：81件（H23） → 124件（H26）
- ・保健所におけるケースマネジメント実施数：9件（H23） → 15件（H26）
- ・ひきこもり支援センター来所実相談人数：21人（H23） → 55人（H26）
- ・ひきこもりに関する研修会の開催状況：13回開催 延べ1,253名
- ・来所相談者33人の転帰状況（H27年度）：相談継続10人、他相談機関利用8人、精神科医療7人、社会参加4人の順となっている。

まとめ

平成23年度から平成26年度の取組において、地域の自殺者と自殺関連行動を減らすために、『1. 久慈モデルの推進』『2. 自殺関連相談対応の推進』がさらになされた。特に、医療機関のみならず、各方面の所属の支援者が参加し、困難ケースについて検討できる事例検討会、ネットワークが定着してきているのは大きな成果である。

今後は、ハイリスクである自殺未遂者支援と自死遺族支援を重点化するなど、個別の専門ケアを捨てずこれまでの取組を継続し、均てん化について共有する。